



「慰安婦」問題 本質は

オール連帯ネット 国会内で集会

赤旗 6/20

日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長の「慰安婦制度は必要だった」とする発言に国



内外から批判が上がっているなか、「慰安婦」問題解決オール連帯ネットワークは18日、「歴史認識・請求権徹底論議！」と題し国会内で集会を開きました。(写真)

日本軍「慰安婦」問題の第一人者で歴史学者の吉見義明中央大学教授が講演しました。橋下氏に「慰安婦」問題の認識を問いたらず公開質問状を提出している吉見氏は「『慰安婦』問題で問われている本質は、慰安所での強制があったかどうか」とのべ、「強制連

行」のみを強調している同氏を批判。「侵略戦争や植民地支配をきちんとして謝罪し、克服することが本当の日本人の誇りの回復につながる」と話しました。

府は、法的には解決済みと主張しているが、『法的』とはとても多義的」と話し、「日韓の市民レベルで共通のものさしを持って、お互い討論することが必要」とのべました。日本共産党の赤嶺政賢衆院議員がいさつしました。

「政府の『解決済み論』を乗り越える」と題して講演した川上詩朗弁護士は、「日本政